

「福音の発信基地 ローマ獄中」 (使徒の働き 28:16-31)

「私たちがローマに入ったときパウロは、監視の兵士が付いてはいたが、一人で生活することを許された。…パウロはユダヤ人のなもたった人たちを呼び集めた。…パウロは神の国のことを証しし、…イエスについて彼らを説得しようと、朝から晩まで説明を続けた。…「ですから承知しておいて下さい。神の国の救いは、異邦人に送られました。彼らが聞き従うこととなります。」パウロはまる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。」

今日で「使徒の働き」の私の説教は最後になります。思い起せば、2020年5月24日が初めて、2023年9月24日で、3年と3ヶ月に亘っています。もちろんその間、臨時的に他の聖書箇所からの説教もありました。その間に新型コロナの時期が再び入り、またこの教会の大きな変化もくぐって来ました。私自身もこの使徒の働きの学びから多くの事を学びました。この書は、ルカによって「福音書」の続編として書かれました。私の記録によれば、この書の緒論として「5つのW」で説明しました。

- (Who) … ルカ (ルカス)、生れはシリアのアレクサンドリア。職業は医師。パウロの殉教後も生きのびる。識者。
- (When) … 60-62年、獄中のパウロと共に書き、出版は75年(ルカ伝)、80年頃(使徒の働き)。
- (Where) … ローマの獄中、パウロと同伴し、パウロから多くの情報を得た。ルカは、ビテニヤで天幕を営む。
- (What) … 1) 初代教会の信仰(使徒信条) 2) 聖霊による一致の生活(多様な生の中で)、3) 初代教会の宣教と確信(見て、聞いて、手で触った事実にもとづく)。
- (How) … 真の主人は、聖霊の働き(復活したイエス)、前半はペテロを中心、後半はパウロを中心。

◎ 主イエスとパウロは、ほぼ同年齢だったと思われる。西暦の年がパウロの歳でもある。以下、「使徒の働き」の主だった事柄を記す。

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1) ペンテステ(聖霊が下る) … 29年 | 11) パウロのエピソト出発 … 51年夏 |
| 2) パウロの回心 … 32年 | 12) パウロの第2回伝道旅行の終り … 51年末 |
| 3) パウロの第1回エルサレム訪問 … 34年 | 13) パウロの第3回伝道旅行 … 52年春-56年春 |
| 4) ききんの時の訪問 … 46年 | 14) パウロのエルサレムでの逮捕 … 56年晩春 |
| 5) パウロの第1回伝道旅行 … 47年 | 15) パウロのカイザリヤ滞在 … 56年夏-58年秋 |
| 6) エルサレム会議 … 49年 | 16) パウロのローマ到着 … 59年春 |
| 7) パウロの第2回伝道開始 … 49年春 | ○ …… パウロの殉教 …… 64年秋 |
| 8) ユダヤ人退去令(ティベリウス帝) … 49年頃 | ○ インスタントス帝判別教公認 …… 313年 |
| 9) アクラとプリスキアのイピソト到着 … 49年秋 | ○ テオドシウス帝判別教国教化 …… 380年 |
| 10) パウロのイピソト到着 … 50年初 | (聖書辞典より) ○ 凱伊ラエ国は70年滅亡 |

ルカがテオフィロというローマ貴族に宛てて書いたこのキリストの福音の歴史は、ユダヤのカリヤ地方で起り、ユダヤ全土、エルサレムに到り、やがて主イエスの遺言とも言うべき「エルサレムからユダヤ全土、そしてサマリヤさらに他の果て(ローマ)にまで、主イエスの福音を宣べ伝える」と言う一貫した道程が記録されている。使徒たちの働きといっても、12弟子の働きは、ペテロに代表されているだけで、あとはペンテステ以後の選ばれた執事たちの一人ペリポの伝道が記され、あとはパウロの働きが主である。パウロのローマ到着により本書の目的エルサレムからローマへの行程が完成したところで、この書は終る。しかし、この書は未完の完成と言えよう。なぜならパウロの最終目的カイザルの前での証し、そしてカイザル上訴の結果は書かれていない。おそらくは、カイザルの代表であるローマ総督がパウロの無罪放免を承諾しているのだから、ローマでも同じ決定が下さ

れたはずである。パウロは2年後に自由になれ、念願のイパニヤ(スペイン)伝道をした後、何らかのキリスト教迫害によって捕えられ、ローマで殉教したのではと考えられる。ルカはパウロの最後まで付き添い、2年間のローマ獄中の伝道を描いたのである。パウロがローマ到着後、最初に行ったのはローマ中のエペソ人を招いての伝道であった。即ち旧約聖書に基づき主イエスキリストであることの証(であった)。私たちは、パウロの異邦人伝道という主題が先行することで、奇妙に感ずるかも知れない。しかし、パウロの伝道は、主イエスの命に代りての順序を踏襲している。すなわち(前の)主イエスのカナン外はどの物語りを思い起すと、主は福音は先ず、小犬の異邦人よりも、子供たち(エペソ人)に優先的に与えられるべきであると語られた。主イエスとパウロは、ほぼ同年代だと考えられる。ルカが一貫して伝えた事柄の一つは、主イエスの事業、主イエスが未完で終わった異邦人伝道事業の受け渡しをパウロに任せ、その主導は復活の主(聖霊として)が手前からパウロに一任すると云う筋書きが見える。主イエスも同胞エペソ人の悔い改めと救いを第一とされた。まずエペソ会堂に入り宣教された。そこから追い出されても尚その主題を変えずにわたれば、あのカナン外生みの言葉を見れば明らかである。パウロもそれを受け継ぎ先ずエペソ人の会堂で、その場合もエペソ人が集まる所(エペソの不信場所)で宣教したのである。彼らが拒否したので、異邦人へ向ったのである。このパターンは、このローマでも実行されている。ローマ到着第一にローマ在住のエペソ人に主イエスの福音を伝えた。ローマでも今更でと同じ事が起った。一部の人は信じたが大多数は受け入れなかった。その結果、福音はエペソ人から異邦人へと向せられた。しかしエペソ人の救いが否定された訳ではない。ローマ書11章以下に語られているように、やがて異邦人への祝福が、彼らに拓き起させ主の福音に帰ることが預言されている。この事をキリスト者は見落(て)てはならない。私はこの学びの最終回を「福音の発信基地」として、これはローマのパウロが居住した家(ローマ兵舎視すべき)が正に主の福音を世界に発信する基地の働きをしたのである。パウロはローマの街中に出て行く事は禁じられたが、彼の所に来る人は、誰でも、どんな人種、どんな身分、老若男女すべてオーケーだった。「この方ははばかることなく、少しも妨げられることなく」という表現に注視したい。英語では with all boldness and freedom 「誰も彼の話しを止める者はいなかった」。レビ・バイブルでは、そう訳している。このギリシヤ語(ακωλύτως)がこの使徒の働きの最後を飾ることはなのである。パウロの伝道生活の中でも、最上の状況、最も心が安くて、平安のうちに、何の慮もなく、自由で、しかもローマの権威のゆりかごや保護の下で過不足なく「千客万来」の商店のように誰とも会い、話すことが出来、静かに執筆ができたこの時こそ、このローマ獄、ほとんどのパウロにとってベストな時ではなかった。そこからパウロ書簡のペリシ、エペソ、コロサイ、ペリシの諸書簡が送られてきた。私はこれまでペリシ書やコロサイ書から説教しました。その中で同じ獄中書簡のペリシ書やエペソ書を引用して語りました。私はこのローマ獄中書簡の世界ほどパウロの宣教スピリットや彼の人格、ひと柄が沸々と現れて出てくる世界は他にないように思いました。私のパウロへの南眠のきっかけは、1997年秋にトルコ旅行のときの体験したものが下地になっている。それはエペソ遺跡で、特にローマ文明の表明とも言うべき、排水、下水道の完備した明るく衛生的な公衆トイレの大石のひやりする便座にすわったときひらめいた幻想、「パウロのエペソ伝道のある寒い冬の日、ペリシという商人がコロサイ町から着いたためエペソに来た。この便座に、同伴した奴隷のオネシモを座らせ暖め(当時の習慣)ペリシが座ったとき、隣りにパウロが座っていて、互いのあいさつの後、パウロは、借りていたツツの講堂での集会について告げたにちがいない。ペリシはそれを機に福音を信じ、一家そろってキリスト者になってコロサイ教会、エペソ教会、エペソ教会の中心的作用を担う人になった。オネシモは自由への憧れからペリシ家を出奔しローマへ逃亡。そこで放蕩息子の帰還のようにローマ獄中のパウロと出会うのである。そこでオネシモは悔い改め信じ、パウロの弟子となった。そこから生れたのがペリシ書であり、コロサイ書であり、エペソ書でもあった。この三つの書簡は三つの教会で回(読)まれたようである。そこには正しい信仰への指導があると同時に、一人の罪を犯した逃亡奴隷オネシモへ、主イエスのアガペーの愛の実践をパウロはペリシに「オネシモの借金のツツは私に回して下さい」と書いて示した。これはパウロが「自費で借家を借り」という表現とも重なる。パウロの「tent作りによる自給自給伝道」から自然に生じた表現であり、彼の「憚ることなく、誰も止められない自由さで」と云う表現の裏にかくされた真実であるように私は思っています。あの2年間のローマの獄中は、パウロの福音発信の基地だったように私には思えるのです。長い間、不十分な者の「使徒の働き」の説教を聴いていただき、ありがとうございます。